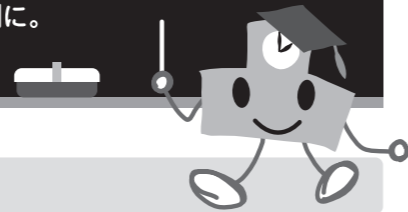


小学校の事例 白石区 白石小学校

校庭の樹齢100年の木々とのふれあいが、植物や環境を守る心を育む。

樹齢100年の木からなる森のある学校。様々な形で教科等に取り入れ子どもの身近な自然に。地域との交流にもつながり環境意識を高める役割に。



内容 校庭の森で クワガタ観察や秋まつり

この学校の敷地には、樹齢約100年の樹木が80本ほど繁っている。校区は昔からの商業地域で、現在は住宅の混在するエリア。そのため、いわゆる「手付かずの自然」がほとんどなく、校庭の木々は「白石の森」として、地域の方々にとっても貴重な緑となっている。

学校では、総合的な学習の時間の中で観察の時間を設けたり、図工で木の絵を描いたりするなど、白石の森を様々な形で教育に取り入れている。3年生は「白石の森 マイツリー」と題した学習で木や植物や虫などを季節をとおして観察している。

また、白石の森にはクワガタなど多くの昆虫が生息しているため、夏には多くの子供たちが観察に訪れる。子供たちにとっては、森の中での活動は特別なものではなく、日常的なものとして位置づけられているようだ。

白石の森は、近所の方も散歩コースとして利用することがある。1年生の生活科で行われる秋まつりでは、老人クラブの方を招待し、白石の森の落ち葉や松ぼっくりで遊び道具やゲームを作り、一緒に楽しんでいる。地域の方との交流の場としても活用している。



「白石の森」



遊歩道のようす

発展 植花活動を通じて思いやりの心を育む

白石の森での活動のほか、本校では花を植える活動などを通じて、地域との交流を行っている。毎年、地域の老人クラブに協力してもらい、1年生とだけのご学級が校内の花壇やプランターに花の苗を植えている。植えた後の水やりや雑草抜きなどの世話も1年生とだけのご学級が担当。花が咲くと押し花にし、その後のようすを知らせるお手紙とともに老人クラブの方に送り、協力してくれた方へ感謝の気持ちを伝えている。



学校前の通学路

今後 森が育んだ 植物と親しむ心

毎年6月には、地域の呼びかけで駅前通りに花を植える活動が行われるが、学校からは児童数十名が自発的に参加している。白石の森での活動や一年時の花を植える活動をとおして、植物や美化への関心が育まれていることがうかがえる。

白石の森は、落ち葉の処理や枝の状態を安全に保つために、多くの手入れが必要。さらに地域と協力し、教育や地域との交流に大きな役割を果たしているこの森を守り続けていくことが望まれている。



通学路のプランター

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

環境に関わる内容は幅広いですが、各学年の教科等で活用・関連できる事があるのでそれらを生かして環境と結びつけることを考えたり、そこから身近な環境問題へ発展させていけたらよいのではないかと思います。